

実践のまとめ（第4学年 外国語活動）

三条市立栄中央小学校 教諭 名古屋 康秀

1 研究テーマ

「話すこと（やり取り）」の力を高める言語活動の工夫
～バングラデシュの子どもたちとのオンライン交流をめざして～

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

小学校学習指導要領の外国語において話すこと（やり取り）の目標には「自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問したり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする」とある。目標を達成するために外国語を用いてコミュニケーションを行う目的や場面、状況を設定する上でICT機器やネットワークのもつ可能性が期待できる。小林ら(2021)は外国とのビデオ通話の取り組みがどのように参加児童のスピーキング力とコミュニケーションをしようとする意思に影響を与えるのかについて実践を行い、児童の質問作成能力が向上することを明らかにした。疑問詞の使用も増え、質問する際に児童たちにとってお互いに関連性のある内容を質問する傾向が観察された。英語で聞くことや話すことへの興味や意欲が高まり英語学習への肯定的影響が期待できることがわかった。

本校の子どもたちは昨年度から、総合的な学習の時間を通して、バングラデシュの学校支援に取り組んでいる。昨年度は学校・家庭・地域に呼びかけアルミ缶を収集して換金し、寄付をした。年度末にはバングラデシュの子どもたちとのオンライン交流に挑戦した。外国語活動でALTから表現を学び練習をしたが、自分の思いをうまく伝えられず、会話を続けることができなかった。対話を続ける即興性を身に付ける手段や疑問文を導き出すことができるよう様々なシミュレーションを設定し、やり取りを続ける手立てを講ずる必要性を感じた。筆者は昨年について持ち上がり、事前アンケートで「英語で話すことに対する自信がある」の質問に対して肯定的に答えた児童の割合は20.6%であったことから、子どもたちへの話すことに対する抵抗感が高い。

筆者は小林ら(2021)の実践を参考にオンラインでのやり取りの場面を設定し、子どもたちが既習と新出の英語表現をできるだけ多く活用し、自分の思いや考えを伝え、学びを積み重ねられる方法を模索したいと考えた。また、相手が想定外の反応をしてきても、その場で考え、即興でやり取りを続けるコミュニケーション能力を身に付け、やり取りを楽しんで英語で話すことに自信をもってほしい。本授業では、相手が想定外の反応をしてきた場면을想定し、対応方法について考えることを通して即興でやり取りする力を高めたい。

(2) 研究テーマに迫るために

① 生きた場면을重視した単元の構想

3年生から学んだ英語を少しずつあいさつに加えて、毎時間の導入時に行なっている。(Hello. How are you? Do you like～? What ～ do you like? I like～.) これらの自己紹介の幅を広げるために、Unit 4を学習後にUnit 7、8、9を学習し、自己紹介の表現を増やしていく。各単位の中では様々なシミュレーションを想定した課題を提示し、やり取りを続ける力を育成する。

具体的には、単元ごとに本番に起こりうる場면을あらかじめ設定する。「伝えたことが理解してもらえない、相手の言っていることが理解できない、答え方がわからない」など子どもたちが戸惑う場면을意図的に作り、そういう場合の対応策について子どもたちと考え、作り上げていく。また計画的に他校との交流を通して、本番に近い環境でコミュニケーションを図ったり、学級活動や国語の時間を使って、コミュニケーションを円滑に行う方法を考え、日常的に他学年と交流し会話をしたりする機会を設ける。

② 子ども一人一人の思いや考えを表現するための支援

ICTを活用して単元ごとに新出表現を使って自分が伝えたいことや質問したい内容をワークシー

トに書くなどして学びを蓄積し、いつでも自分の思いや考えを表現できるようにする。

(3) 研究テーマに関わる評価

本実践の効果を探るために次のような方法を用いて評価する。

- ① 事前、事後のアンケート調査を実施し、子どもたちの外国語活動や「話すこと(やり取り)」に対する意欲や自信、抵抗感などに関する意識の変化を測定する。また抽出児童を選出し、単元ごとに振り返りやアンケート結果から変容を読み取る。
- ② 実践後にテストを行い、学習内容の習得方法を分析する。
ALTや友達、他校とオンラインでの交流を記録し、既習単元の表現をいくつ使うことができたか、会話を続けるための戦略を活かしていたかを分析する。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

「バングラデシュの子どもたちとオンライン交流しよう」

Unit 7 What do you want?

Unit 8 This is my favorite place.

Unit 9 This is my day. (Let's Try 2 東京書籍)

(2) 単元の目標

- ・自分や学校、地域のことについて、学習した表現を理解し、自分の考えや気持ちをまとめて伝えたり、応答したりして話す(やり取り)技能を身に付けている。(知識・技能)
- ・これまで学習してきたことを活用して自分や学校、地域のことについて考えや気持ちを伝え合い、様々なシミュレーションを考え、即興的に会話を続けることができる。(思考・判断・表現)
- ・これまで学習してきたことを活用して自分や学校、地域のことについて考えや気持ちを伝え合い、様々なシミュレーションを考え、即興的に会話を続けようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〈知識〉 欲しいものを尋ねる表現(What do you want? I want ~.), 自分のお気に入りの場所について伝える表現(This is ~. This is my favorite place.), 日課を表す表現(I wake up (at 6). I have breakfast (at 7). I go to school. I go home. など)について理解している。</p> <p>〈技能〉 欲しいものを尋ねる表現、自分のお気に入りの場所について伝える表現、日課を表す表現を用いて考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p>バングラデシュの子どもたちのことを理解したり自分のことを伝えたりするために、自分や相手のことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合っている。</p>	<p>バングラデシュの子どもたちのことを理解したり自分のことを伝えたりするために、自分や相手のことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。</p>

(4) 単元の指導計画と評価計画(全 20 時間、本時 16/20 時間) 国語・学活 6 時間含む

次(時)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 次 Unit 7 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・欲しいものを尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しむ。 ・買い物ごっこを通して、相手にほしいものを聞いたり、自分がほしいものを伝えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ほしいものを友達に紹介しよう。 ◎バングラデシュの子どもたちを想定して、シミュレーションしよう。 	<p>本次では記録を残す評価は行わないが目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間において教師が児童の学習状況を確認する。</p>

2次 Unit 8 (8)	<ul style="list-style-type: none"> 世界と日本の学校生活の共通点や相違点を通して、多様な考え方があることに気付くとともに、教科名や教室名の言い方や道案内の仕方に慣れ親しむ。 相手に配慮しながら、自分が気に入っている場所について伝え合おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分のお気に入りの場所を友達に紹介しよう。 ◎自己紹介や自分の欲しいもの、お気に入りの場所を他校の友達にも紹介しよう。 ◎バングラデシュの子どもたちを想定して、シミュレーションしよう。 	知識・技能 自分のお気に入りの場所について、My favorite place is～. を用いて尋ねたり答えたりしている。また Why を使って相手に質問する。 思考・判断・表現 相手に伝わるように工夫したり、2往復以上のやり取りを続けたりして、考えや思いを伝え合っている。 【振り返り・行動観察・ビデオ分析】
国語・学活 (6)	<ul style="list-style-type: none"> スピーチなどで、自分が感じたことが聞き手に伝わるように、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫して話すことができる。 		
3次 Unit 9 (5)	<ul style="list-style-type: none"> 日本語と英語の音声やリズムなどの違いに気付き、日課を表す表現に慣れ親しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分の日課を友達に紹介しよう。 ◎バングラデシュの子どもたちを想定して、シミュレーションしよう。 	知識・技能 自分の日課について I wake up～. I have～. I come to school/go home at～. を使って説明している。 【振り返り・行動観察・ビデオ分析】
4次 (1)	<ul style="list-style-type: none"> バングラデシュの子どもたちと英語でオンライン交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎バングラデシュの子どもたちに英語で自己紹介をしよう。 	

4 単元と児童

(1) 単元について

本単元では自分が気に入っている場所を理由とともに紹介する活動を設定する。お気に入りの場所を伝えることに加えて会話を続けるという言語活動を通して、やり取りする力を高める。

(2) 児童について

子どもたちは、一往復だけの会話の不自然さや物足りなさを感じていて、会話を続けるには「質問・問い返し」が大切であることに気が付いた。日本語であれば会話を続けることができるが、英語となると会話が止まってしまう、ジャスチャーなどを使ってなんとか伝えようという姿勢はあまり見られない。日本語であればすぐに言葉が出てくるので、英語でどのように表現をしたらよいかを考え、実際に考えた表現をALTに試して、通じるかを確認、教えてもらいながら授業を行ってきた。この単元を通してICTなどを使って自分のお気に入りの場所を説明できる姿、聞いた子どもたちは、Why?を使って理由を尋ね、2往復以上のやり取りを続けようとする姿をめざす。

5 本時の展開(令和5年10月31日実施)

(1) ねらい

自分が気に入っている場所について伝え合う活動を通して、相手の反応に応じて、即興でやり取りを続ける方法を考える。

(2) 展開の構想

This is my favorite place. の表現を使って、お互いのお気に入りの学校の場所について伝え合う。

ゲストティーチャー(バングラデシュ出身)からの映像を見せ、思わぬ反応があった場合を想定してどのように会話を続けるかを考える。My favorite place is the library. と言った時、相手が図書館を知らず What is it ? という追加質問を受ける場合、どのように答えたらよいかを考えることを課題に設定し、授業を展開していく。

(3) 展開

時間	学習活動	教師の働きかけ 予想される児童の反応	□評価○支援◇留意点
5	①既習表現の復習 Why?と相手から理由を聞かれたらどうしたらよいかを考える。 ・I like～. を使って説明する。		
25	②GT(ゲストティーチャー)からの映像を見る。 GTから「学校に〇〇室がないから、わからないかもしれない」と伝えてもらう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">◎「言葉の意味が分からない」と伝えられたら、どのようにして会話を続けたいだろうか。</div> ・ジェスチャーや写真を提示して場所の目的を英語で説明する。	・日本語だったらどのように対応するのかを考えるよう促す。 ・意見があまり出なかった場合グループで考え、発表する。	□相手に伝わるように工夫して考えや思いを伝えている。 □既習表現を使って、相手に気持ちを伝えている。
10	③担任を相手にどのように答えるのかを練習し、いくつかのペアや個人で発表する。		□英語以外にも思いを伝える方法(ジェスチャーや写真・絵等)があることを知る。
5	④ペアか個人で挑戦するか選んで、動画を見た後、自分の反応を撮影する。 ⑤振り返りをする。		

(4) 評価

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう人間性
自分のお気に入りの場所について、My favorite place is～. を用いて尋ねたり答えたりしている。また、相手の反応に応じてやり取りを続ける方法を身に付ける。	相手に伝わるように工夫したり、2往復以上のやり取りを続けたりして、考えや思いを伝え合っている。	相手に伝わるように工夫したり、2往復以上のやり取りを続けたりして、考えや思いを伝え合おうとしている。

評価方法：振り返りシート・行動観察・ビデオ分析

6 実践を振り返って

(1) 指導の実際

- ① 1次では、買い物ごっこを通して自分がほしいものを伝えたり、相手がほしいものを聞いたりする表現に慣れ親しんだ。グループでお店を考え、商品をスライドで作成し、ウェブ上でやり取りするかたちでお店ごっこを展開した。子どもたちは積極的に活動に取り組んだが、I want～. という表現を使わずに商品を指さしたり、日本語で「何売っているの?」という言葉が聞こえたりした。学習後毎回のウォーミングアップで教師—児童でやり取りする時、What do you want for Christmas?と聞くと単語で答えることができた。
- ② 2次では、My favorite place is ～を使って学校でのお気に入りの場所を紹介する活動を行った。

相手から Why? What's~? と問い返しがくるという設定で取り組んだ。導入時、いきなり Why? と聞かれて子どもたちは戸惑い、なにも反応できなかった。そこで「日本語であればどう答える?」と聞くと、例えば図書館であれば「本が読める。落ち着いているから」と答えが出てきた。「それを英語でどのように答えたらよいただろう?」と問うと、book とか cool down などの単語が出てきた。さらに、ジェスチャーやタブレットによる翻訳機能を活用することなど子どもたちなりのアイデアが出てきた。覚えた英語に加えて、予期せぬ反応があったときの対応を考え、実際に使ってみるという試行錯誤をしていた。本時では参観した先生方にも試してみる姿が見られた。

- ③ 3次・4次の実践はまだしていない(R 5.12月現在) が、3次の導入として近隣の小学校同学年とオンラインを通して実際に英語でのやり取りを試みる予定である。子どもたちは学習した表現を使って自己紹介をしていた。スライドに用意した自分の好みやお気に入りの場所について話をした。子どもたちは初対面の相手に自分の思いが伝わる充実感と聞けた喜びを感じることができた。「英語でやり取りすることへの自信がもてるようになった」に肯定的に答えた児童の割合は84.4%に上がった。

(2) 研究テーマについて

自己紹介の幅を広げるために単元を入れ替えたことで自己表現をアウトプットする機会を多く確保することができた。外国語活動だからこそ可能であり有効であると考え。また、ワークシートに自分の思いや伝えたいことをメモできるよう工夫をしたが、英語で書き込むのは難しいのでメモやイラストが書けるような工夫が必要である。そこで、相手の反応を想定して「Why?」と聞かれたらスライドを見せて説明できるようなスライドを活用して自己紹介の表現を積み重ねる工夫を行った。

様々なシチュエーションを想定し、子どもたちと一緒に対応策を作り上げていくことができた。具体的には、最終目標であるバングラデシュの子どもたちとの交流前に、近隣の小中学生とオンライン交流を企画した。初対面に近いので自分たちのこれまでの成果を試すことができた。こうした経験を積み重ねていくことがやり取りする力を向上させる大きな手立てになると期待している。また、学級活動や国語の時間を使って他学年と交流し会話をした単元構成をしたことにより、子どもたちは外国語活動で What do you want? What sport do you like? 等を使って3年生に積極的に質問する姿が見られた。子どもたちは心理面でも人とコミュニケーションする楽しさに気付くことができた。

(3) 今後の課題

本実践は、子どもたちが相手意識をもってやり取りを続けられる力を育むために、シミュレーションの場面を設定し、普段あまり顔を合わさず、初対面に近い状況で日本語にたよらないような場面を作った。その結果、ジェスチャーや知っている単語を使ったり、翻訳機能を活用したりする姿が見られた。最終的には「英語でもっと話したい。もっと英語を学びたい。」という英語学習への意欲を高めたい。これまでの「英語を聞いて、練習して発表する」というインプットからアウトプットの単元構成を変え、「まず英語を使ってみて、失敗から学び、新たな表現方法を模索し、また試してみる」アウトプットから始まり、インプットし、またアウトプットするという学習過程が有効であると実感した。オンライン交流や他校交流などの必然性をもたせた目的、生きた場面や状況の設定をどれだけできるかが肝要である。

子どもたちが進んでやり取りする力を高め、将来、実際に外国の方とやり取りをして、世界に通用する国際人となることを願っている。

〈参考文献〉

- ・小林翔、古屋雄一朗、中川右也(2021)『小学校児童のスピーキング力向上とコミュニケーションをしようとする意思の育成を目指したビデオ通話の実践』. 小学校英語教育学会誌. 21 巻01 号 pp. 4~19